

平成28年度 第2回太田市総合教育会議 会議録

開会年月日	平成29年2月10日(金曜日) 午後 1時40分		
閉会年月日	平成29年2月10日(金曜日) 午後 2時40分		
開会場所	太田市役所南庁舎 3階 大研修室		
協議事項			備考
(1) 太田市教育大綱の制定について			
(2) その他			
出席者	構成員	【市長】 清水 聖義	書記・記録 教育総務課 担当職員2名
		【教育委員】 金田克次委員長、高木潔委員長職務代理者 中島利香委員、板橋明委員、澁澤啓史教育長	
	事務局	【市長部局】 企画部長、企画部副部長(企画政策課長)	
		【教育部】 教育部長、副部長、教育総務課長、学校施設管理課長、学校施設管理課主幹、青少年課指導主幹、文化財課長、文化財課主幹、歴史施設課長、学校教育課長、市立太田高校管理係長、教育総務課総務係長	
傍聴者	【一般】 0名 【報道機関】 3社		

I 開会

II 市長あいさつ（要旨）

- 冬の朝は寒いから、朝の1時間目にスイッチを入れるのではなく、行った人が暖かくして授業を始めるという環境を明日からでもお願いしたい。ISOで節電と言われているが、せっかくある空調を有効利用してほしい。
- 前回の会議では不登校問題を取り上げた。不登校対策専門委員を充実させたいということで、来年度予算の中で新たに充当する。
- 今日は太田市教育大綱の策定で、皆さんからご意見を聞きたい。

III 教育委員長あいさつ（要旨）

- 今まで市長には、教育環境の整備・充実に極めて力を入れていただいた。常々おっしゃっている、まちづくりは人づくり、人づくりは教育にあるということの証左である。
- 本大綱策定を契機にし、全力で市長が教育分野に傾注できるよう、その責めを果たしながら務めて参りたい。

IV 協議事項

（1）太田市教育大綱の制定について

〈市長〉

- ふるさと納税を使った奨学金制度を考えている。ふるさと納税で子どもたちの育成に関わろうという動きで、画期的な施策であると考えている。併せて市内で働く保育士の奨学制度（授業料の1／2補助）を考えている。民間の奨学金制度もあり、充実させていきたい。

〈板橋委員〉

- 奨学金制度は給付型になる見込みが出たと感じている。今の時代は格差があり、子どもに経済的な影響が出る場合がある。本大綱に奨学金制度の充実が新たに掲げられ、大変うれしく思う。
- 子育て支援制度という面で、第2子給食費半額が掲げられ、市長の給食費施策に取り組む決意が出たと感じる。
- 本大綱には、時代的背景が反映されているのが印象的である。2020年の東京オリンピック・パラリンピックが謳われており、スポーツ分野に取り組む姿勢が見て取れる。
- 全体的に大変よく出来ている大綱であると感じる。

〈市長〉

- 第2子給食費半額は幼稚園や保育園も新年度から実施する予定である。

- ソフトボールの世界選手権とオリンピック事前合宿候補地に手を挙げている。市内の人工芝グラウンド整備が終わる時期であり、市内の子どもたちのソフトボールと連携するという面でも良い。
- GKAと連携し、先生方をGKAで研修してもらうことを考えている。英語教育の前進が出来ればよい。

〈高木委員〉

- 昨年度から総合教育会議を開催し、30人程度学級の実施や給食調理員の増員の予算付けをしてもらい、また、前回の不登校児童生徒への取り組みが本大綱にも反映されており、大変感謝している。
- 新しい第2子給食費半額で、継続的に約2億円近くかかる経費の原資は、どういった施策があるのか。

〈市長〉

- 藪塚本町幼稚園と新田第一保育園の民営化による人件費の削減、工業団地の造成で入る固定資産税と、駅南の再開発事業や富士重工の新しい建物等での固定資産税を見込んでいる。

〈中島委員〉

- 今の生徒はほとんど塾通いをしており、その背景は、先生方が授業以外の部活の顧問や他の庶務が多くなり、本来の職能成長という点で、子どもたち1人1人への対応が回らないからであると感じる。先生方の業務の見直しをお願いしたい。

〈市長〉

- 部活動は中体連の影響がある。大会には顧問が付いて行かなければならない。クラブ活動で競う方が良い。
- 本市はスポーツアカデミーや芸術学校を、子どもの人数が減って行くことを想定して先取りして作った。
- 部活に情熱的な先生もいる。部活以外で生徒たちと関わりたいが、出来ないジレンマも持っているのではないか。

〈教育長〉

- 外部コーチの招聘もあるが、充分ではないのが現実。

〈中島委員〉

- 授業について、レベル別に希望制を設ける方法はどうか。学校の中だけで受験対策にもなると感じる。

〈市長〉

- 中学に上がる前の小学校の段階で、最低限のレベルを身に付けさせるのは小学校の先生の責任である。
- 例えば漢検や算数検定など、分かりやすいレベルまでは面倒を見るべきである。

〈教育長〉

- レベル別に分けるには、それだけ先生の人的保障がないと出来ない。
- 教育支援隊の制度があり、各校に配置されているが、不登校の問題に費やすなど、各校それぞれ独自課題に費やしているのが現状である。
- 各校にも情報を出しながら、真剣に考えて行きたい。

〈中島委員〉

- 特別支援教育の関係で、障がいのある子どももっと一般の学校に入っていった方が心のバリアフリーにもなり、健常者障がい者両面から、小さいうちから肌で感じた方が大人になっても差別をしない心になると感じる。

〈市長〉

- 宝泉中学校が、皆で協力してやっているのでは。

〈教育長〉

- バリアフリーについては施設管理が対応しており、環境面はだいぶ改善がされている。

〈中島委員〉

- いじめの問題について、小さいうちからいじめとはどういうことか、教育をしていくべきではないかと感じる。いじめをいじめと思っていない子がいる。

〈市長〉

- いじめられないようにするにはどうしたらよいか、という勉強も必要では。

〈教育長〉

- いじめられる側に、何か非があるだろうという考えは否定されている。大きくなってから後遺症になって出てくる。
- 現在は、いじめの定義が変わってきている。いじめられる側にも何らかの問題があるのだろうということが、一切否定されている。

〈中島委員〉

- いじめを笑い飛ばせるような、たくましい心を持った子を育てることも大事。

〈板橋委員〉

- いじめにあった子が、相談できるような環境を作ってやるのが大事。
- 今のいじめられる子は、学校の先生に相談しづらい。

〈市長〉

- 悩みごと相談員を、各校に1人配置している。その人に相談してもらうのが良い。これも他のまちにはない太田市独自の施策である。
- 悩みごと相談員も研修が必要である。

〈教育長〉

- 研修ももちろんやっている。本市は悩みごと相談員だけに限らず、ふれあい相談員や、教育研究所の相談員もあり、色々な対策をしている。
- 教育研究所の電話相談も、4～500件程度来ている。

〈金田委員長〉

- 本大綱は、全てを網羅して充実し過ぎている。全ての人たちが秀才のレベルでなければ気に入らないような錯覚を持ってしまう。全ての底上げをするのは難しい。意欲を無くさず頑張れる人を作るレベルが良い。
- 昔企業で働いていたとき、整理・整頓・清掃の「3S」というのが流行った。1Sを徹底的にやるのが、同時に他の2Sもやらなければならない、結果、それが良い方向になる。義務教育においても同じことで、よく考える必要がある。我々は欲をかき過ぎている。
- 市長の考えの中には、義務教育とは何かということがあると思う。
- 国は、義務教育をするということは、それに関わる経費は、国が持つべき。給食費全額を負担するくらいの姿勢をみせないと、少子化への歯止めは出来ないと考える。その中で、市長は第2子給食費半額という先鞭を付けた。これは画期的な事である。
- 全てを網羅したやり方の時、アクセントが必要である。1つの目標に向かって大勢の行動を1つにするというゼロディフェクト運動が昔アメリカで流行った。来年度は、ぜひ「不登校ゼロを目指す」という運動が展開されると良いのではないかと感じる。

〈市長〉

- 不登校について、品質管理の「魚の骨」に例えて、誰が、何をしたらよいかという役割分担を設け、目的に向かって皆で忠実にやっていくと良い。

〈板橋委員〉

- 文化財行政の推進と関連して、竹工芸の飯塚小玕齋（しょうかんさい）の作品

が大変貴重であり、どのように考えているか。

〈市長〉

○現在高山彦九郎記念館に収蔵庫があり、11点保管している。今後、太田市美術館・図書館で展覧会を行う予定。

〈教育長〉

○様々な角度から貴重なご意見をいただいた。本大綱について、これで推進させていきたい。

〈全委員〉

○賛同

V 閉会